

# ハゲタカジャーナルにご用心！

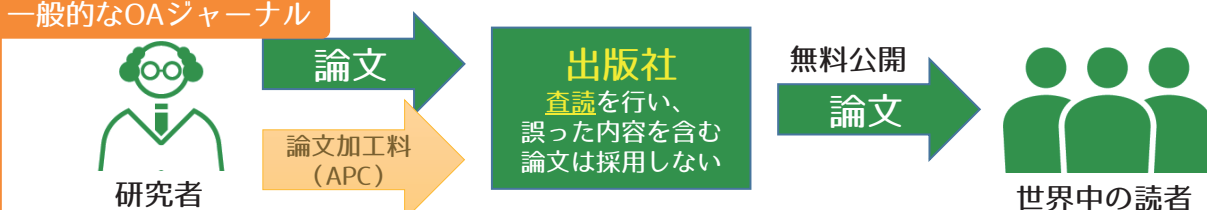


執筆した論文を電子ジャーナルに投稿しようとしている皆さん、そのジャーナルは本当にあなたのためになる良質なジャーナルでしょうか？ ひょっとすると、逆にあなたの評判を落としてしまう悪質な“ハゲタカジャーナル(predatory journal)” かもしれませんよ！

## ハゲタカジャーナルとは？

オープンアクセスジャーナル(OAジャーナル)は、研究者の書いた論文を集め、査読を行い、世界中の読者に無料で読ませるビジネスモデルです。読者から料金を徴収することはできません。そこで出版社は、論文の著者から「論文加工料(APC)」の名目で料金を徴収します。

### 一般的なOAジャーナル



このビジネスモデルで最大の利益を得るには、(1)査読にかかる時間とコストを削減し、かつ(2)できるだけ多くの論文を採用してAPCを受け取ることとなります。そこで、悪質な出版社は投稿された全論文を(査読をしないと謳いながら、実際は)査読なしで、高額なAPCを支払わせて掲載します。このようにビジネスモデルを悪用し大きな利益を挙げるのがハゲタカジャーナルです。「なんでもいいから自著論文がオープンアクセスジャーナルに載ったという実績がほしい!」という研究者にとっては好都合なジャーナルかもしれません。しかし、そのようなジャーナルに掲載された論文は正当な評価を得られるでしょうか？

ハゲタカジャーナルの問題点は、以下の2点に集約されます。

1. 一般的なOAジャーナルと同様、高額なAPC(数千ドル規模)の支払を要求する
2. 偽査読のため、論文が出版されても学術的信頼性に欠ける

**CAUTION!!!**

特に悪質な出版社の場合、インパクトファクターを偽ったり、著者が著作権譲渡契約書にサインをした後に高額なAPCが必要だと判明したりすることがあります。また一度論文を投稿した著者は、査読者や編集委員として無断で名を使われることもあります。あなたの研究への評価、そしてなによりあなた自身の名誉を守るため、投稿先のジャーナルは慎重に選びましょう！

## ハゲタカジャーナルを避けたい！

毎日新聞と和歌山大学の和田俊和教授によれば、日本の研究者は、これまでに少なくとも5000本以上の論文をハゲタカジャーナルに投稿しています(毎日新聞、2018年9月3日、東京朝刊)。ここでは、ハゲタカジャーナルを避けるためのコツをご紹介します。

### ビールのリスト Beall's List

コロラド大学のジェフリー・ビールがハゲタカ出版社への抗議のために2009年に作成した出版社の一覧(個人の判断による掲載のため批判もある)。現在は有志がアップデートを行っている。

[<https://beallslist.weebly.com/>]

### OAジャーナルディレクトリ

#### Directory of Open Access Journals / DOAJ

ビールのリストがいわばブラックリストであるのに対し、こちらはホワイトリスト。質の高いOA査読ジャーナルを採録し、それらへのアクセスを提供しているディレクトリ。

[<https://doaj.org/>]

INANEハゲタカ出版事例同盟は、ジャーナルの整合性を疑うべき「注意信号」を示しています。

- ✓ 論文投稿の勧誘やゲスト編集者としての招待に際し、過剰な美辞麗句が並び立てられている
- ✓ ジャーナルの連絡先が不明
- ✓ 編集者の専門性や専門家としての立場を証明できるものが見当たらない
- ✓ 投稿から出版までを異例の短期間で約束している(1ヶ月以内など)
- ✓ ジャーナル名が漠然としていたり、有名ジャーナルに酷似している

[<http://naepub.com/predatory-publishing/2014-24-3-2/>]